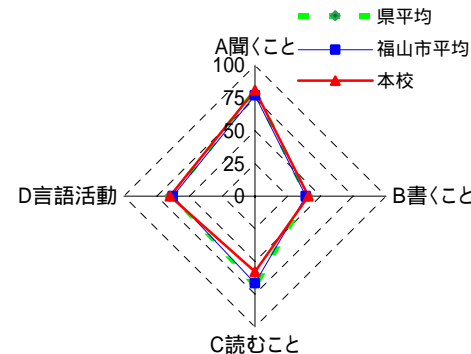


1 教科について

国語

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	64.2%
福山市平均	62.7%
学校平均	61.2%



重点課題 (: 「基礎・基本」定着状況調査)

読むこと
 叙述に即して場面の移り変わりや情景を想像しながら読む。

書くこと
 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書くことができる。

昨年度の課題

聞くこと
 必要な項目を選択すること。

読むこと
 叙述に即して場面の移り変わりや情景を想像しながら読む。

書くこと
 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書くことができる。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項から取組みの具体

読むことの指導
 表現に注意しながら、言葉の意味・優れた表現などに気をつけながら読む。
 音読指導を繰り返す。

書くことの指導
 毎週金曜日に、目標を持たせ、視写タイムの実施をした。
 授業のなかにワークシートなどを取り入れ、書く作業の実施をした。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

読むことにおいて、各学年工夫したワークシートを用い、あらすじを押さえながら場面ごとの想像を広げ、叙述と結びつけることによって確かなことばの力を身につけさせる。

- ・ 論理的思考力が定着するような問題をチャレンジタイムや宿題のなかで行う。
- ・ 問答ゲームを取り入れる。
- ・ 音読指導
 - 読みのめあてをもって音読をする。
 - 授業時間内に音読を多く取り入れる。(一人読みやグループ読みなど)
 - 家庭の協力を得ながら、音読カードを有効に利用する。

書くことにおいて、どの教科も書く活動を入れる。

- ・ 結論先行型で、根拠や理由を明らかにしながら書く場を国語科だけでなく、他教科においても取り入れる。
- ・ 児童につけたい力を明確にしての視写タイムを継続して取り組む。
 内容として、主語と述語が明確な文や文の表記・表現方法が意識できるものを活用する。

昨年度の課題

量と測定

かさを任意単位のいくつ分と考えて比較すること。

数量関係

伴って変わる2つの数量関係を読みとること。

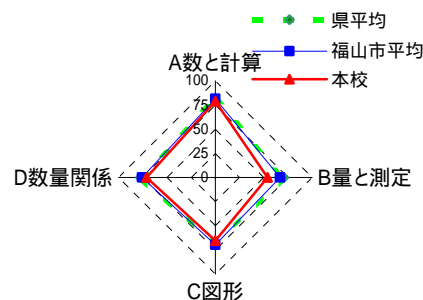
昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

算数的活動において、活動を楽しんでいる児童は多いが、活動のねらいや目的をとらえられていない。また、活動から考察することが苦手である。算数的活動のねらいや目的を持たせたうえで活動をさせていく。まとめの時に視覚に訴えるようにパソコンや自作教材等を用い、量を正確にとらえる活動を日常的にきめ細かに指導していった。

伴って変わる2つの数量の関係を探るために、図や表に表すなど操作活動を取り入れる。また、作問指導を行うことで、問題のあり方を理解させ、読む事の重要性に気づかせ、読解力を高めていった。

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	75.6%
福山市平均	74.4%
学校平均	68.6%



重点課題（「基礎・基本」定着状況調査）

量と測定

量の大きさに対する感覚。
面積を任意単位のいくつ分と考えて比較すること。

数量関係

伴って変わる2つの数量関係を読みとること。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

量の大きさに対する感覚を養うために、様々な具体物についての大きさを調べたり、確かめたりする作業的、体験的な活動を積極的に取り入れていく。また、面積を任意単位のいくつ分と考えて比較する力を身につけさせるために直接比較、間接比較、任意単位による測定という指導の段階を工夫し、普遍単位の必要性に気づかせていく。

- ・ 児童自身が具体物を用いて作業する活動を授業のなかで仕組んでいく。
- ・ 身の回りの事象に、目を向けることのできる体験的な指導内容を重視する。

伴って変わる数量関係を読みとる力を身につけさせるために、求めるものと他のものとの関係づけてみる見方を養うとともに、二つの変化する数量の間にある関係を明確にするために、対応する値の組を幾つか求め、順序よく表などに整理して、共通なきまりを見つけ出させる活動をしていく。

- ・ 問題をつかませるために、提示の仕方を工夫する。
- ・ ノートに絵や図・言葉の式などを書かせ、問題解決型の授業をしていく。
- ・ 国語科の取り組みとあわせ、読解力を身につけさせていく。

における指導を充実させるとともに、月2回のチャレンジタイムや宿題を活用し、重点課題や前の学年の復習プリントなどを反復練習させるようにする。

2 意識調査 (「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙)

(1) 生活・学習 (「基礎・基本」：学校質問紙 P 1～2，児童質問紙 P 1～3)

(「全国」：学校質問紙 P 10～13，P 18，P 20～21，児童質問紙 P 1～15)

改善したい点(「基礎・基本」，「全国」)	今後の具体的な取組みの内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ テレビを見たり，ゲームをしたりする時間を減らし，家庭学習や読書をする時間を増やす。 自分の考えや見たこと，聞いたことを順序よく理由をつけて相手に伝えることができるようにする。 ・ ・ 家庭で宿題や復習，土・日に学習する時間が少ない。 朝や夕食など家族との会話が少ない。 テレビを見たり，ゲームをしたりする時間を減らし，家庭学習や読書をする時間を増やす。 自分の良さや将来に対する夢を肯定的にとらえられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ テレビゲームをする時間については，生活カードの活用や学級だより学級懇談会などで保護者と連携して生活の見直しをしていく。 読み聞かせをしたり，本の紹介をしたりして読書の大切さを知らせる。 家庭学習をする習慣をつけるために，保護者と連携する。 早寝早起きをして生活のリズムを整えるように指導する。 問答ゲームや発言のマニュアルを授業や生活の場に取り入れ，理由をつけて順序よく話せるように指導する。 ・ ・ 早寝早起きをして生活のリズムを整えるように指導する。 テレビゲームをする時間については，生活カードの活用や学級だより，学級懇談会などで保護者と連携して生活の見直しをしていく。 キャリア教育の取組みを通して，自分に対する肯定感を持たせる。

(2) 教科 (「基礎・基本」：学校質問紙 P 3～7，児童質問紙 P 4～6) (「全国」：学校質問紙 P 14～17，児童質問紙 P 17～29)

教科	児童の回答と学校の指導についての課題(「基礎・基本」，「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 文章を書いたり，読んだりするときに気をつけて取り組んでいる姿が昨年より上がっている。 聞く活動では，話の要点をつかみながら聞くことがむずかしい。 相手に分かりやすく伝えることが苦手である。 伝えたいことを構成を考えて，文章に書くことが苦手である。 ・ ・ 授業のなかで児童が学習を進めることを仕組み，意識して，話したり，書いたりしている児童が少ない。 今学習していることが自分に役に立つと思っている児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 大事な点は，メモを取りながら聞く。 伝えたいことや中心をはっきりさせ，順序よく筋道だてた話し方の工夫をするように指導する。 文の5W1Hや構成を考えたり，要約する学習を取り入れたりしながら，作文指導に力を入れる。 ・ ・ 授業のなかに，言語技術指導を取り入れていく。 児童につけたい力を明確にしての視写タイムを継続して取り組む。 内容として，主語と述語が明確な文や文の表記・表現方法が意識できる文章を活用する。このような取組みを通して，分かる喜びを味わわせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 授業に対する興味・関心が昨年より上がっている。 理由をあげて自分の考えや解き方を説明するのが苦手である。 立式や問題づくりが苦手である。 ・ ・ 授業内容が分からず，興味・関心が薄い児童がいる。 今学習していることが自分に役に立つと思っている児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 自分の考えややり方を図や言葉でノートに書き，結論・根拠の順に説明させる発表の工夫をする。 問題解決への手順やヒントを工夫したり，具体物を使った算数的活動を取り入れたりして，「わかる授業」を組み立てていく。 少人数指導やグループ学習を行い授業形態を工夫する。 ・ ・ 児童自身が具体物を用いて作業する活動を授業のなかで仕組んでいく。 身の回りの事象に，目を向けることのできる体験的な指導内容を重視する。 ノートに絵や図・言葉の式などを書かせ，問題解決型の授業をしていく。

指導改善のための実施スケジュール

